

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	女 70代	デンタルケア (なし)	200mg 1日間	アナフィラキシーショック	
				投与開始日 (投与中止日)	A院受診。本剤服用前には不調を感じず。 歯科治療後、本剤200mg服用。その後、自覚症状(ふらつき)発現。
				投与6時間後	口唇の痺れ、前胸部、腹部、両上肢に発赤、そう痒感が出現。経過観察。
				投与7時間半後	改善がないため、B院受診、入院。 来院時は会話可能(JCS 1)、SpO ₂ 95% (RA)。その後、SpO ₂ 90%まで徐々に低下。血圧 71/25mmHg。意識レベルが徐々に悪化し、全身に蕁麻疹が出現。
				投与7時間40分後	ルート確保。エピネフリン0.3mg筋注。d-クロルフェニラミン5mg、ファモチジン20mg静注。血圧は102/55mmHgと改善するも、全身のふるえが出現。
				投与8時間半後	メチルプレドニゾン125mg静注。呼吸困難消失と共にふるえ消失。
			中止1日後	軽快、退院。	

臨床検査値

	投与開始日	投与7時間半後	投与7時間40分後
白血球数 (/mm ³)	5300	—	—
好中球 (%)	58.1	—	—
好酸球 (%)	1.1	—	—
好塩基球 (%)	0.7	—	—
単球 (%)	6.2	—	—
リンパ球 (%)	33.9	—	—
LDH (IU/L)	190	—	—
CK (CPK) (IU/L)	177	—	—
BUN (mg/dL)	15	—	—
クレアチニン (mg/dL)	0.7	—	—
CRP (mg/dL)	0.032	—	—
収縮期血圧 (mmHg)	—	71	102
拡張期血圧 (mmHg)	—	25	55

併用薬：アスピリン、アテノロール、ロスバスタチンカルシウム、ラベプラゾールナトリウム、アルプラゾラム、ヒアルロン酸ナトリウム